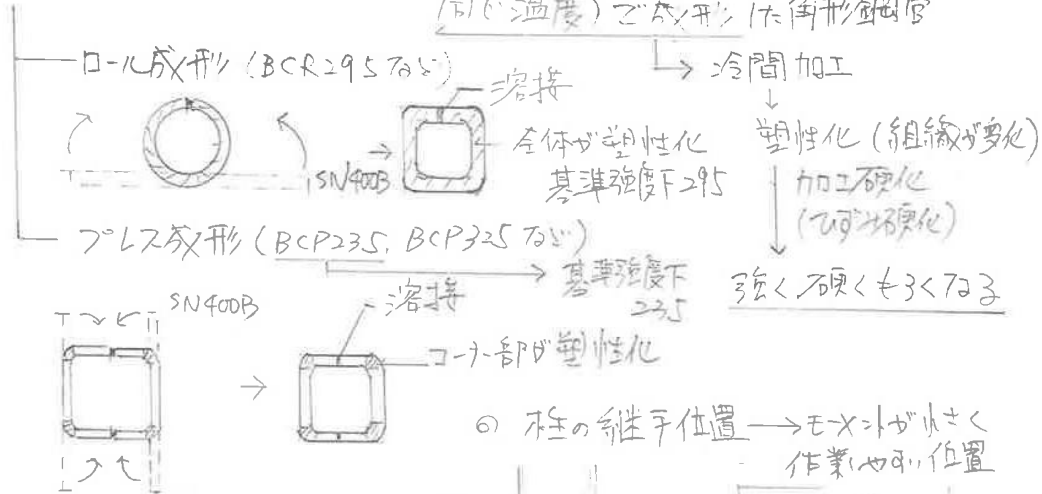


平成29年 No.18 冷間成形角形鋼管

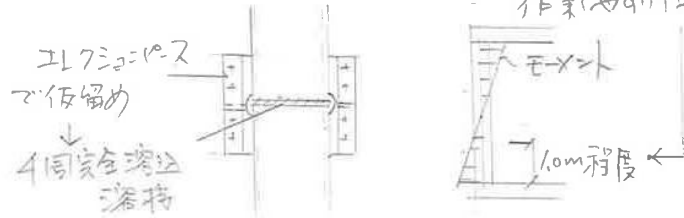
1. フォルス成形角形鋼管のコーナー部の強度と変形性能 → 加工硬化(ワーク硬化)の影響により強度は高くなるが変形性能は低下
2. 柱と梁との仕口部の接合形式 → 通しダイフラム形式、内ダイフラム形式、外ダイフラム形式 がある
3. 柱の継手位置 → モーメントが小さく作業しやすいように、床スラブ面から1m程度の位置に設ける
4. 耐震計算ル-1-1の設計 → 標準せん断力係数 $\alpha = 0.3$ 以上 + 柱の設計応力の割増

○ フォルス成形角形鋼管のコーナー部の強度と変形性能

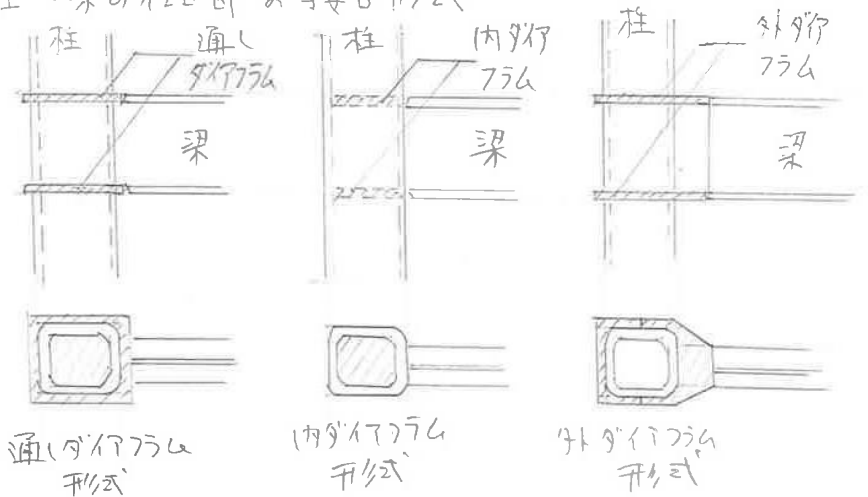
冷間成形角形鋼管 → 再結晶温度の低い温度(通常は周囲と同い温度)で成形した角形鋼管



○ 柱の継手位置 → モーメントが小さく作業しやすい位置



○ 柱と梁の仕口部の接合形式



○ 耐震計算ル-1-1の設計

- ・ 標準せん断力係数 $\alpha = 0.3$ 以上
- ・ 柱の設計応力の割増 → 十分な耐力を確保
- ・ ワーク硬化による変形性能低下を補うため ←